

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No357

(文科省事業 研究開発学校制度採択校)

「未来探究科」と各教科等を繋ぐ概念ベースの探究カリキュラム 渡邊 和也先生(大阪教育大学附属平野小学校 教諭)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



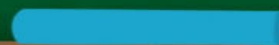
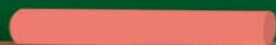
渡邊 和也
わたなべ かずや

大阪教育大学大学附属平野小学校 教諭

1985年生まれ
教師年数 18年目（現在1年生担任）

総合的な学習の時間 / 体育科の授業研究
教育課程の編成などのカリキュラム研究

日本生活科・総合的学習教育学会 会員
カリキュラム学会 団体会員





大阪教育大学附属平野小学校

研究開発学校（令和6～9年度）

**未来の社会を創り出す子どもを育てる
概念ベースの探究カリキュラム開発**

2年次

「未来探究科」と各教科の関連を明確にする

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No357

(文科省事業 研究開発学校制度採択校)

「未来探究科」と各教科等を繋ぐ概念ベースの探究カリキュラム 渡邊 和也先生(大阪教育大学大学附属平野小学校 教諭)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

それではご覧ください



大阪教育大学附属平野小学校

研究開発学校（令和6～9年度）

**未来の社会を創り出す子どもを育てる
概念ベースの探究カリキュラム開発**

2年次

「未来探究科」と各教科の関連を明確にする

未来探究科

1 実用的で学問的な 4 領域

2 各教科の学びを統合・横断

3 児童自らが意味や価値を見出す探究学習

1

実用的で学問的な 4 領域

A 領域



地域

B 領域



自然

C 領域



文化

D 領域



幸福



幸福

文化

地域

自然

1 学期 「祭りプロジェクト」



2 学期 「わははプロジェクト」



通年 「水プロジェクト」

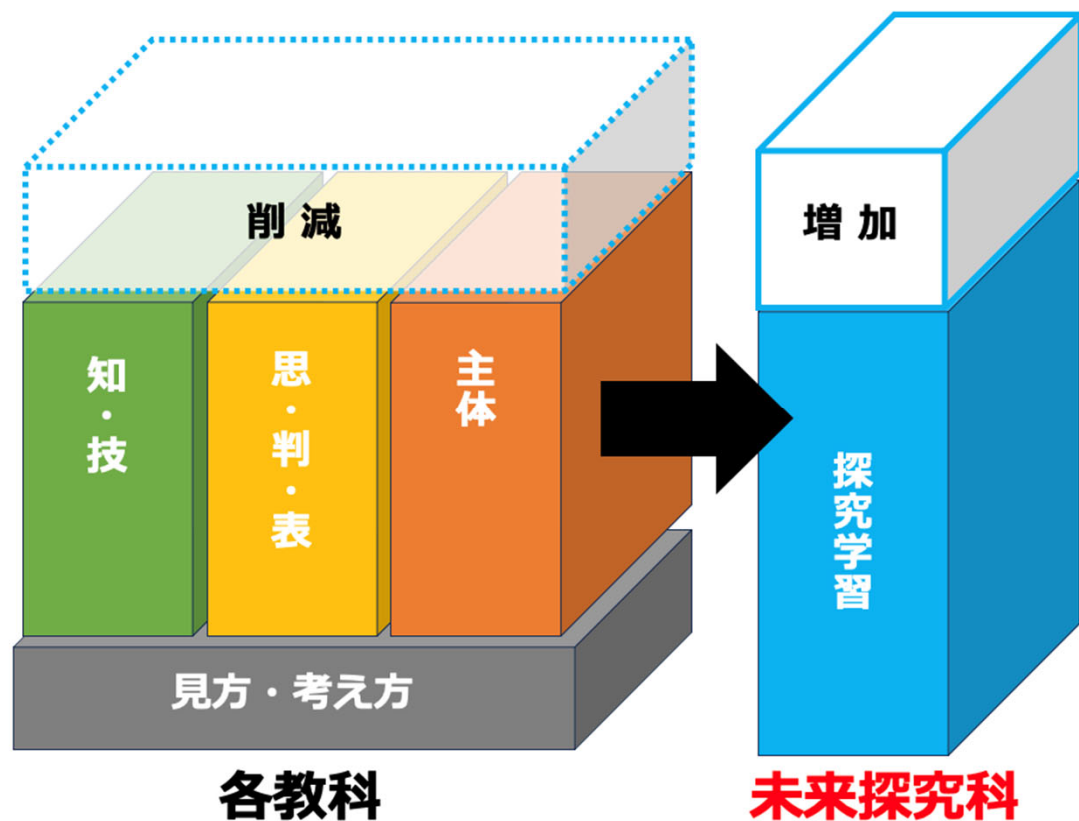


3 学期 「かっこいい大人プロジェクト」



2

各教科の学びを統合・横断



年間時数

245～280

1領域 70時間

(3) 単元計画	
※ ①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分類 ④発表・発表	
未来探究科の活動	児童の姿
1. 身の回りの水の存在を知ろう！ ①水のイメージを確認する 水から連想するものを伝え合う 学校水探検(校内フィールドワーク) で身の回りの水を探す	本質的な問い 水とは何か？
未来探究科 70時間	
②調べたことを整理する 「これまでの活動をまとめよう」 ③調べたことをまとめる 「水循環マップづくり」 ④調べたことをまとめる	水循環地図や水循環の仕組み、水循環を支えている人や人々が水循環を支えていることを理解する。【分解・意味・仕組み】
教科の学習 96時間	
発展させるために自分ができることを考え行動することができる。	
予定時数 70h	統合・横断時数 96h

統合・横断する教科(時数)

●国語科(統合:9h)
「漢字辞典 2h」
「新聞を作ろう(書く)7h」

●理科(統合:14h)
「水のすがた 8h」
「水のゆくえ 6h」

○算数(横断:3h/全6h)
「折れ線グラフ」

●道徳(統合:2h)
「D 自然愛護」

●社会科(統合:26h)
「暮らしを支える水 13h」
「下水の処理と再利用 13h」

●理科(統合:6h)
「地面を流れる水のゆくえ」

●特別活動(統合:8h)

●総合的な学習の時間
(統合:17h)

●国語科(統合:9h)
「調べたことを報告しよう
(話す・聞く)」

●道徳(統合:2h)
「D 自然愛護」



浄水場の仕組み



流れる水



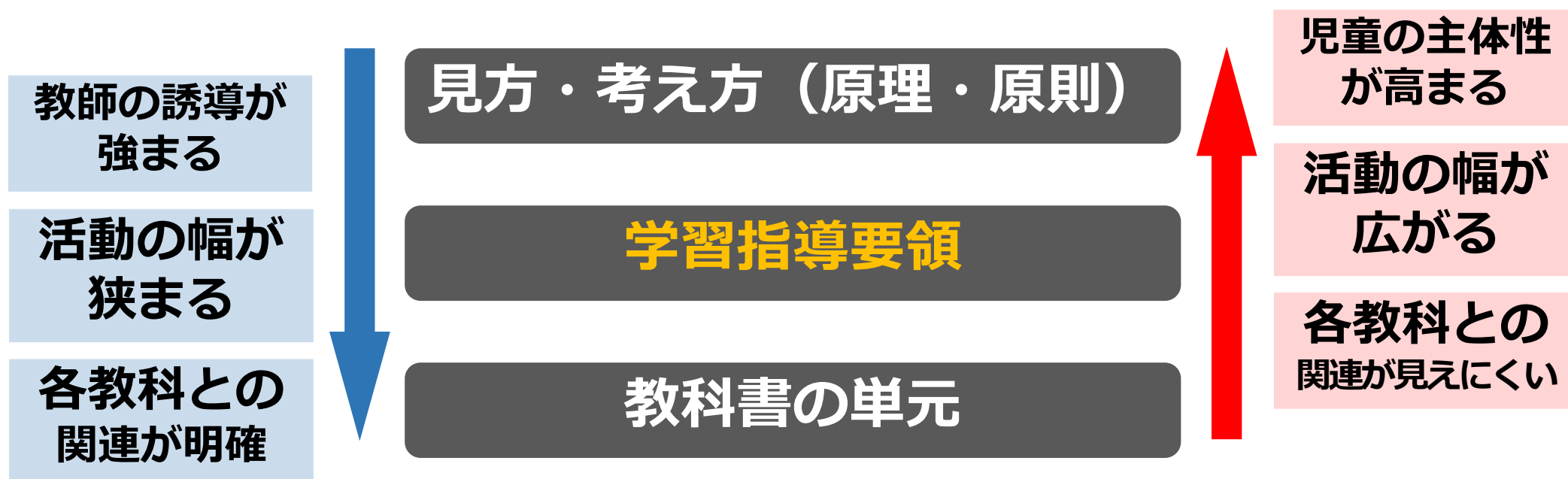
調べて報告



漢字辞典

各教科の学びを統合するために

各教科の資質・能力をどの水準で取り扱うのか



各教科の学びを統合するために（令和7年度）

① 「概念・方略」で整理

② 活動にどう組み込むかを計画

各教科

中核単元

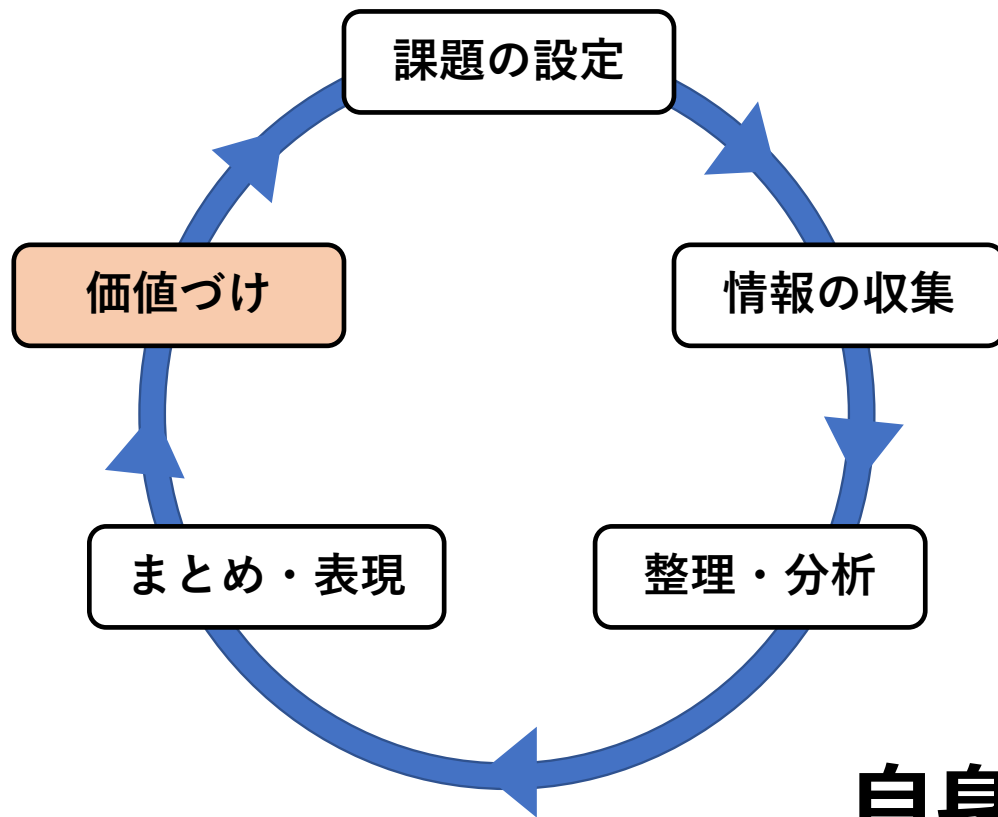
未来
探究科

④ 習得しているかを確認

③ 発揮する活動だったかを考察



3 児童自らが意味や価値を見出す探究学習



「価値づけの時間」

これまでの活動を中長期的にふりかえり、自分の生き方や考え方、社会での意味や価値について考える時間。

自身の成長を実感 ・ 行動の変容

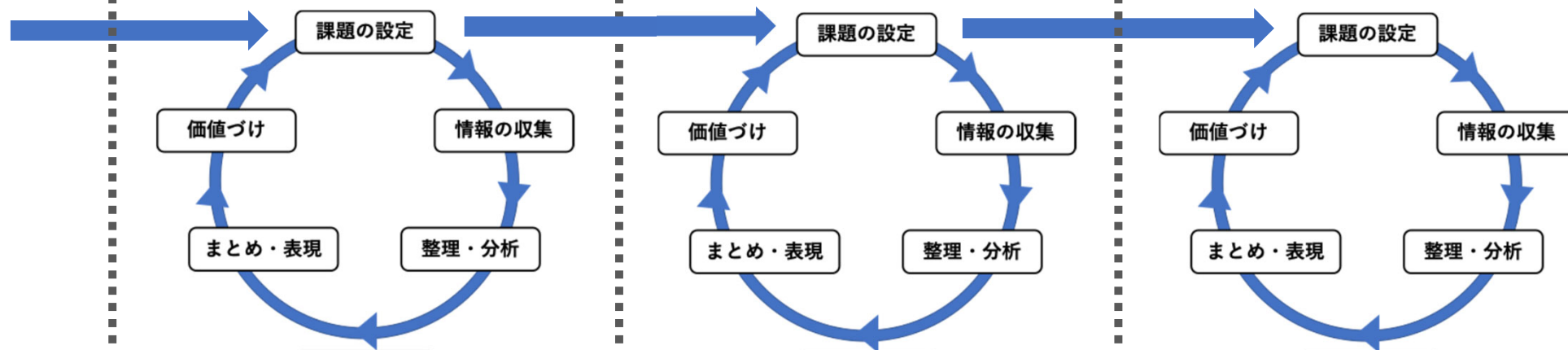
未来探究科の単元構成

0 サイクル

1 サイクル

2 サイクル

3 サイクル



対象と
出会う

対象そのものを
理解する

他と
比較・関連付けて
理解を深める

社会に働きかける

CT（コーディネートタイム）

プロジェクト学習

（ 45 or 90分間 ）

CT（ 15分間 ）

潜在的な学びの明示化
（ 個別最適な学び ）



- 自己理解 / 他者理解
- 探究活動の自己調整
- 学習保証

未来探究科

1 実用的で学問的な 4 領域

2 各教科の学びを統合・横断

3 児童自らが意味や価値を見出す探究学習

研究の背景

社会的な要請 (実用的な学び)

主権者教育 人権教育
キャリア教育 国際理解教育
防災教育 健康教育 ICT教育

+

各教科の学習
(学問的な学び)

「概念ベース」で 学習内容を統合・横断



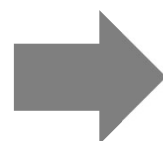
未来探究科
(実用的で学問的な学び)



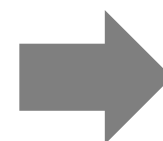
従来の学習



学問
(既存の学習内容)



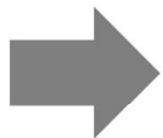
教材研究



未来探究科



本質的な問い



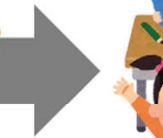
子どもの思い



教材研究



学問
(学習内容を創る)



「本質的な問い」の設定



幸福

誰もが幸福に生きるために

文化

生活を豊かにする文化の担い手として

地域

地域社会を豊かにするには

自然

自然とともに生きるには

概念の設定

誰もが幸福に生きるために
生活を豊かにする文化の担い手として

地域社会を豊かにするには
自然とともに生きるには

本質的な問い

中心概念



(問いを解決する)
社会的に実用性のある概念

学習内容（テーマ）の設定

縦糸

各領域の系統

	民主主義	エネルギー循環	多文化	人権
6年	地方政治がどのようなシステムで成り立っているかを理解し、政治に関わり、人々の思いや願いを実現させるためにできることを考えて連携して行動する。	地球は、太陽の光を源とするエネルギーを供給・変換することで成り立っていることに気づき、地球環境の保全のために、エネルギーを効率的に使うための科学技術の発展や生活の工夫に着目して行動する。	多文化をその文化の背景や心のあり方なども含めた全体を多面・多角的に捉え、自らが実感した文化の意味や価値をいろいろな人に発信して生活に活かそうとする。	社会には様々な価値観を持つ人がいることに気づき、地域の多様な立場の人と互いに尊重して語り合ったり協働したりしながら、差別をなくす社会の実現に向けて行動する。
5年	産業	炭素循環	和食	平和
	地域の産業がどのようなシステムで成り立っているかを理解し、産業をつなげて、人々の思いや願いを実現させるためにできることを考えて連携して行動する。	地球上に多様な姿で存在する炭素が、地球上や生物の間で循環していることに気づき、生態や気候のバランスを保つために取り組んだり、生活をより良くするために活かしたりする。	和食（和食文化）をその文化の背景や心のあり方なども含めた全体を多面・多角的に捉え、自らが実感した文化の意味や価値をいろいろな人に発信して生活に活かそうとする。	社会には様々な立場の人がいることに気づき、互いに尊重しながら共に競ったり交流したりすることの意義を感じて行動できる。
4年	祭り	水循環	お笑い	仕事
	地域の祭りがどのような仕組みで維持・発展されているかを理解し、地域の人々の思いや町の歴史を受け継ぎ発展させるために、できることを考えて行動する。	地球上に存在する水は、姿を変えながら地球全体を循環し、多様な生物やその環境に影響を与えていることに気づき、健全な水循環を維持するために行動する。	お笑い文化（地域の無形文化）を習得しようとする多様に広がっていくことに気づき、いろいろな人に発信して一緒に楽しむ。	社会の仕事や働く思いは多様であることに気づき、自分や他者の将来に向けて進んで考え行動する。
3年	安心	生態	名物	生活習慣
	地域の人々の生活を支える仕組みを理解し、地域の人々が安心して暮らせる生活環境をつくるために、できることを考えて行動する。	地球には、地域の環境によって多様な生物が関係し合っていることに気づき、それぞれの地域の環境を保全しようとする。	名物（地域の有形文化）を追求すること多様に広がっていくことに気づき、いろいろな人に発信して一緒に楽しむ。	一人一人に合った生活習慣があることに気づき、自分や地域の人の健康的な生活のためにできることを考えて行動する。
2年	町	つながる命	季節	役割
	町にある様々なものや人に役割があり、私たちの生活が支えられていることに気づく。	地球には、同じ種類でも多様な個体差がある生物が子孫を残すことで命をつなぐことに気づき、1つ1つの命を尊重して次の世代につなぐとする。	季節を多様な方法で表現して楽しむことができることに気づき、いろいろな人たちと一緒に楽しむ。	一人一人に居場所があって役割がある、かけがいのない存在であることに気づき、それぞれの居場所で自分の見出した役割を全うしようとする。
1年	学校	生き物	遊び	個性
	学校にある様々なものに役割があり、私たちの学校生活が支えられていることに気づく。	地球には、多様な種類の生物が存在することに気づき、多様な生物を知って自分なりに関わる。	多様な遊びを経験したり遊びを工夫したりすることで楽しみが無限に広がることに気づき、親しい人たちと一緒に楽しむ。	自分や友だちにはそれぞれの個性があることを理解し、互いに認め合いながら、様々な人と親しくなる。

横糸

各教科との関連

地域社会を豊かにするには



地域

概念

相互性

地域社会は『人・もの・こと』の3要素で構成され、これらが相互に関わり合って成立する社会システムの中で、流動的に結びつくことで豊かになる。

連携

多様な人たちが互いに連携・協力することで構築・維持される。

方略

社会的思考

理想と現状のズレから集団の課題を見出し、解決策(納得解)を導き出す。

縦糸

「人・もの・こと」が
それぞれの役割があって つながっている

1年「学校」

2年「町」

生活を支える仕組みがあってつながっている

3年「安心」

4年「祭り」

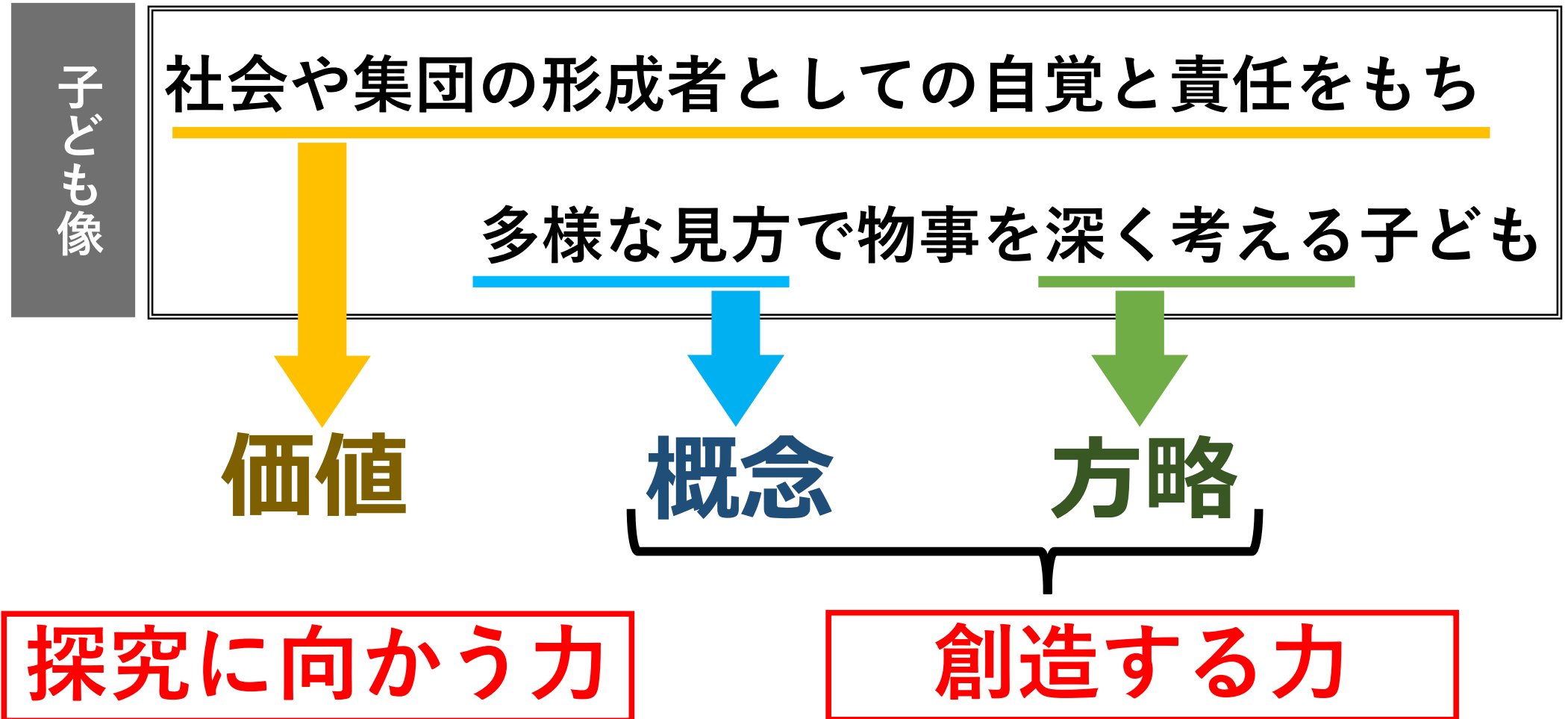
大きなシステムで流動的につながっている

5年「産業」

6年「民主主義」

地域社会の相互性・連携

資質・能力の設定

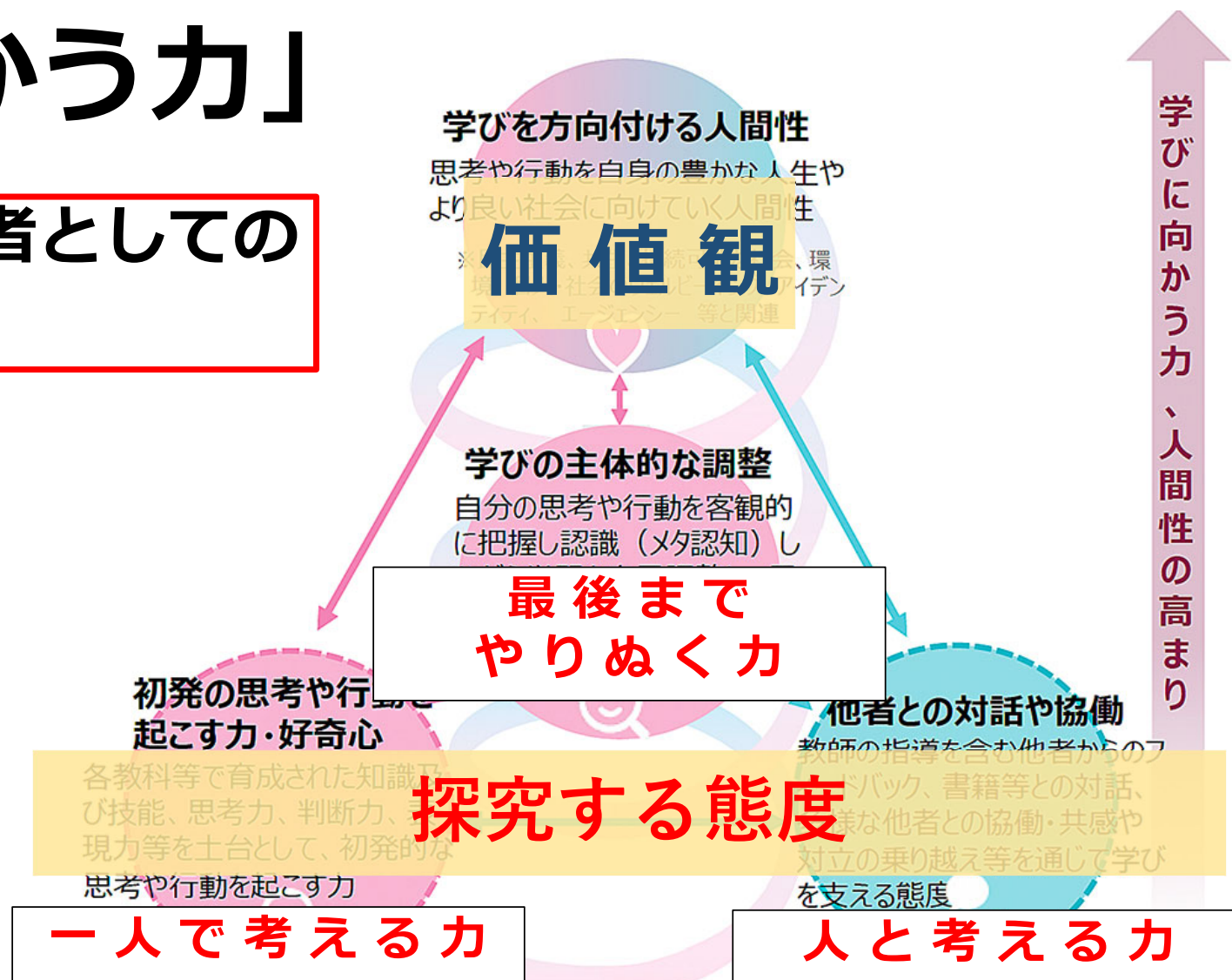


「探究に向かう力」

	観点	キーワード	子どもの姿
価値観	人間的価値観	自己実現	自分の生き方・考え方を見つめて考え直す。
	社会的価値観	正義	探究の対象や社会のあり方、または社会に対しての自分のすべきことを考え直す。
探究する態度	一人で考える力	好奇心 自己効力	興味・関心をもって対象に関わり、自らの経験や各教科の学びを活かしながらより良く対象に働きかける。
	人と考える力	社会意識 対人スキル	他者の視点で物事を考えたり、共感したりして互いを尊重する。 他者に積極的に関わり、より良い関係を築く。
	最後までやりぬく力	自己調整	自分なりの課題を見出す。 計画を立てたり過程を工夫したりする。 活動を振り返り、新たな意味や価値を見出す。

「探究に向かう力」

社会や集団の形成者としての
自覚と責任をもつ



「創造する力」

子ども像

多様な見方で 物事を深く考える姿

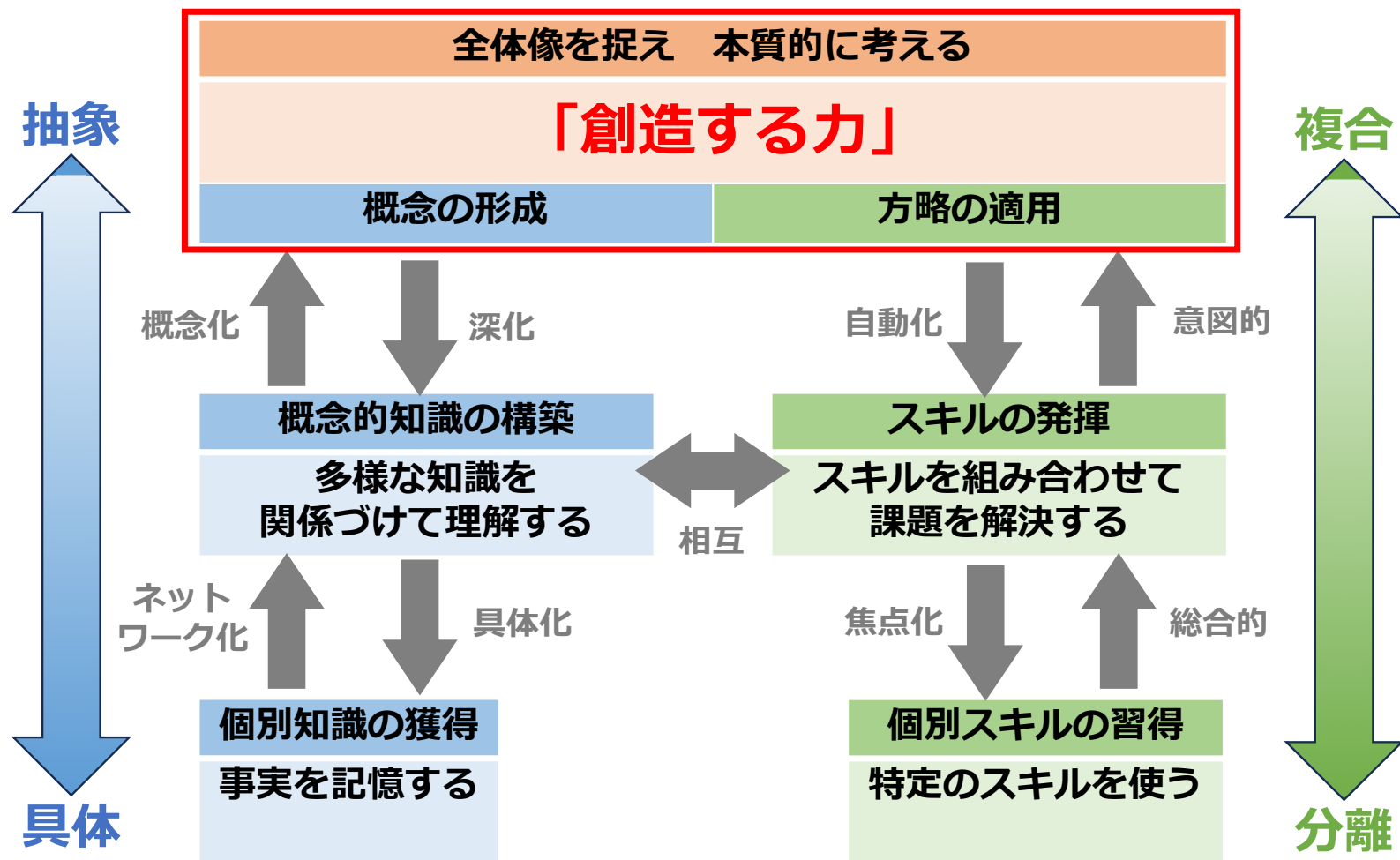
全体像を捉える
概念

知識

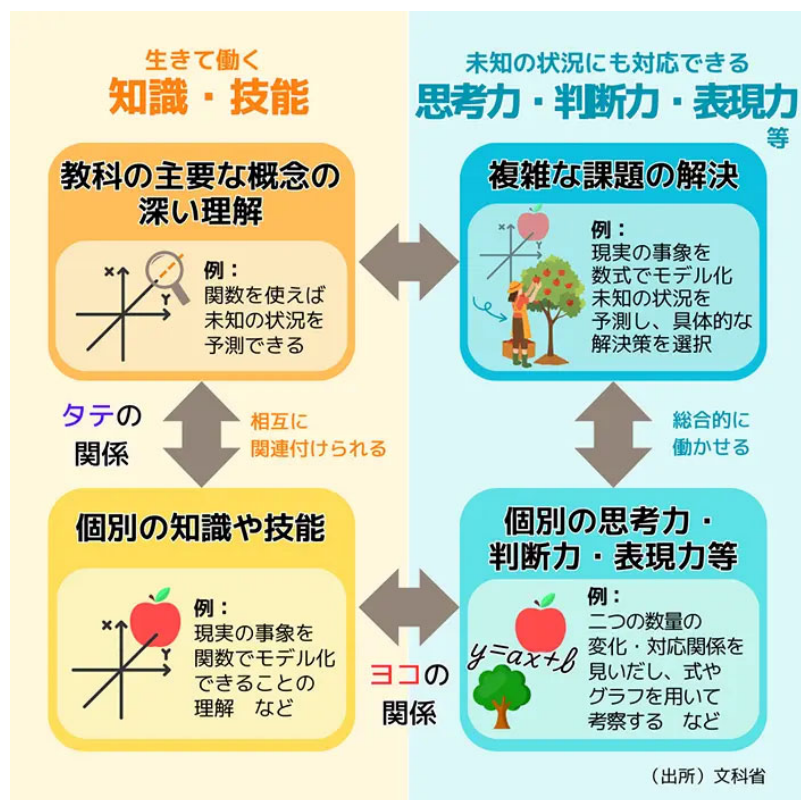
本質的に考える
方略

技能を含む
思考力・判断力・表現力

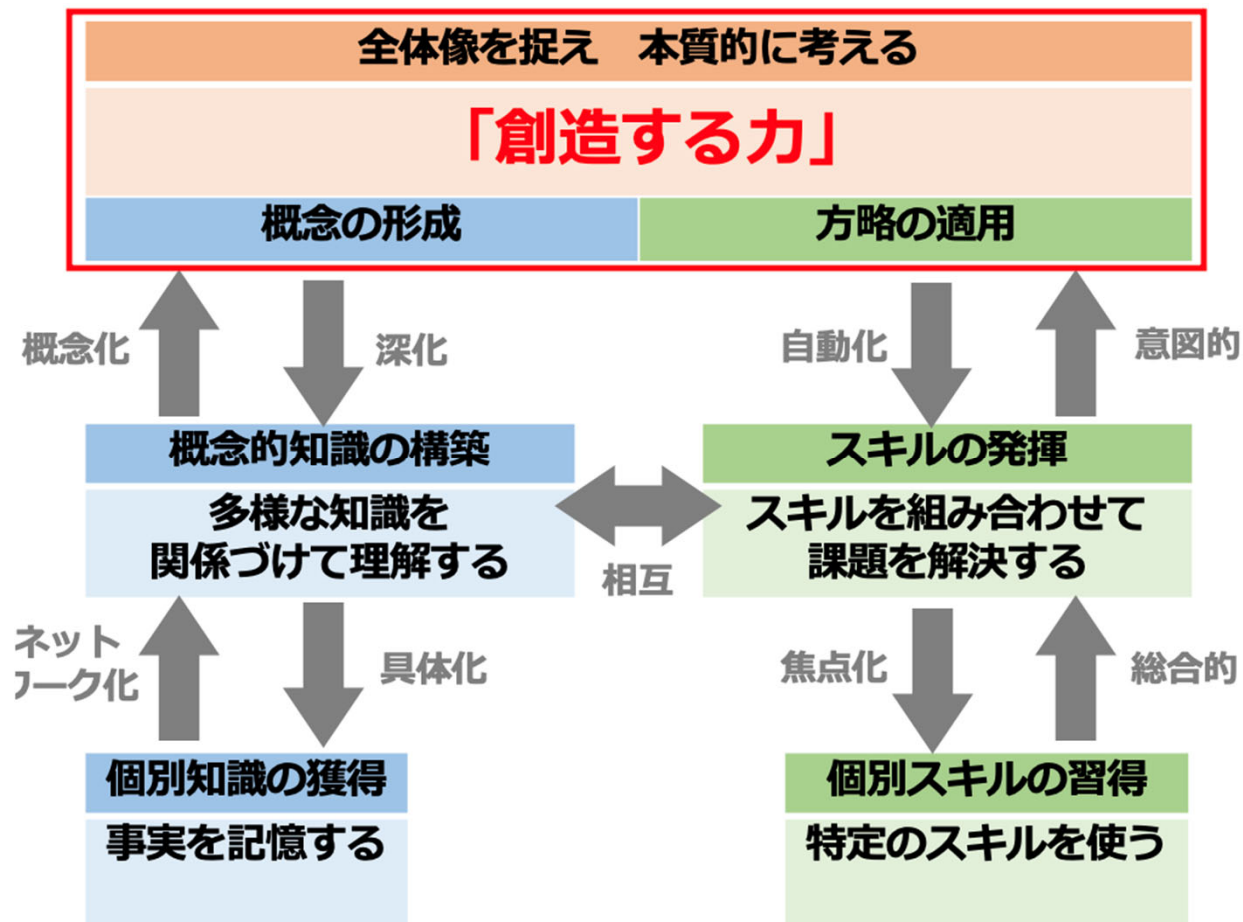
「創造する力」



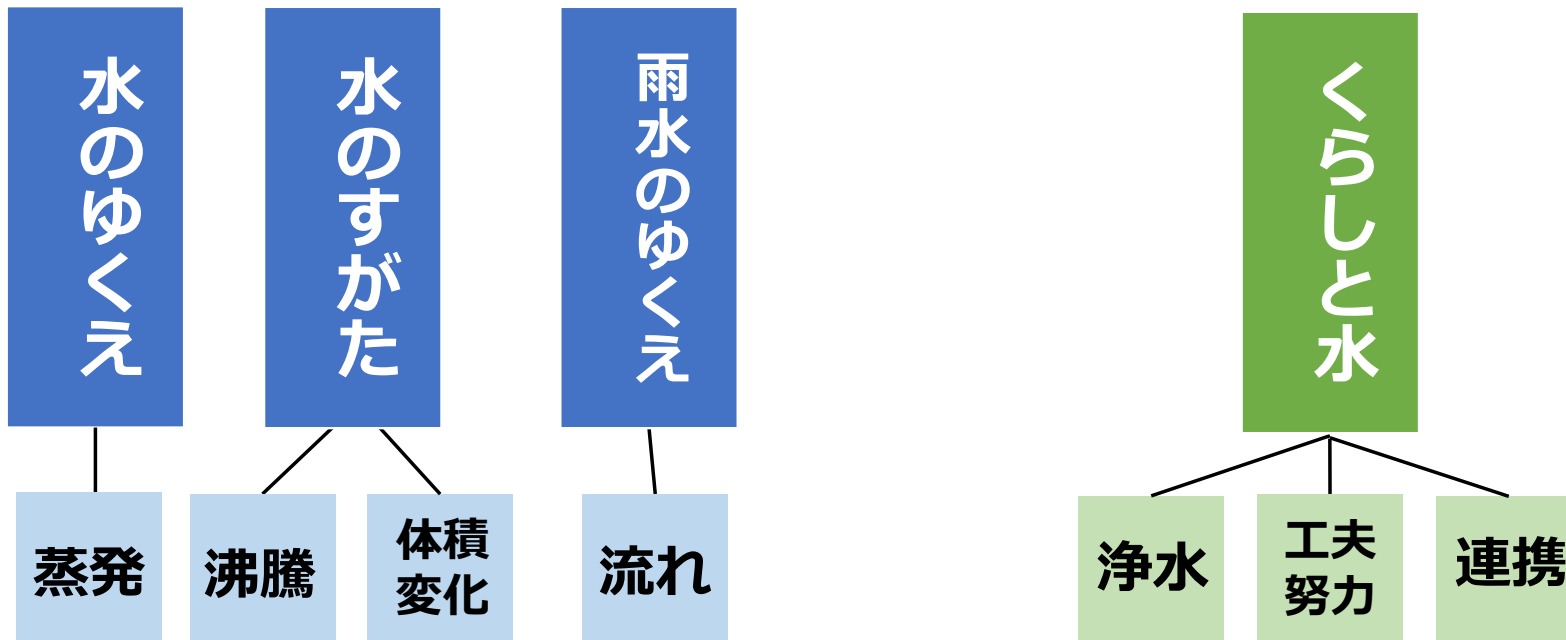
次期指導要領 ヨコとタテの構造



「創造する力」



概念



個別知識

概念

循環

有限性

持続

抽象

自然の水循環

人為的な水循環

水の
状態変化

エネルギー
物質としての水

水の安定的な
供給・処理

蒸発

沸騰

体積
変化

流れ

ろ過

浄水

工夫
努力

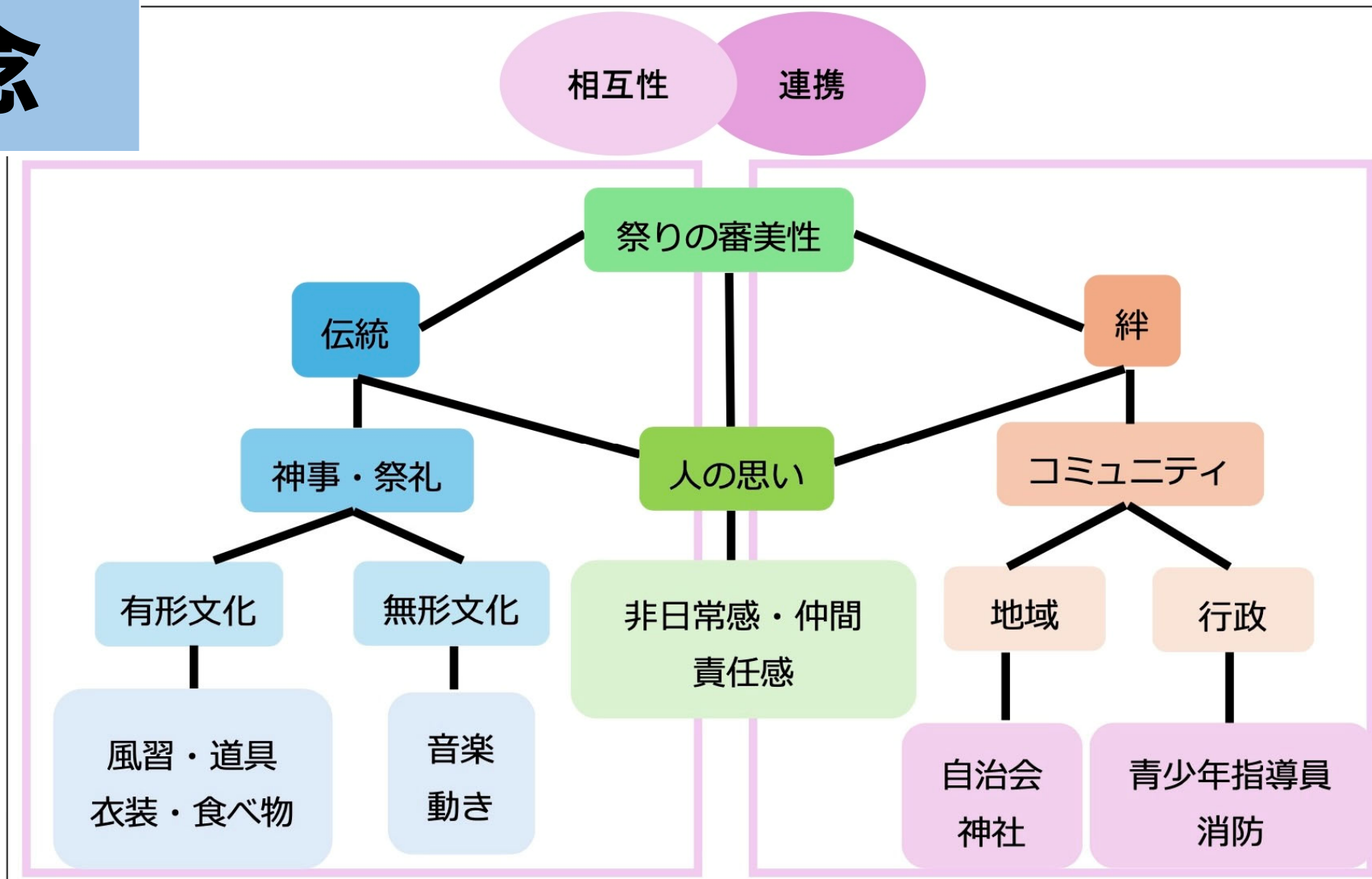
連携

具体

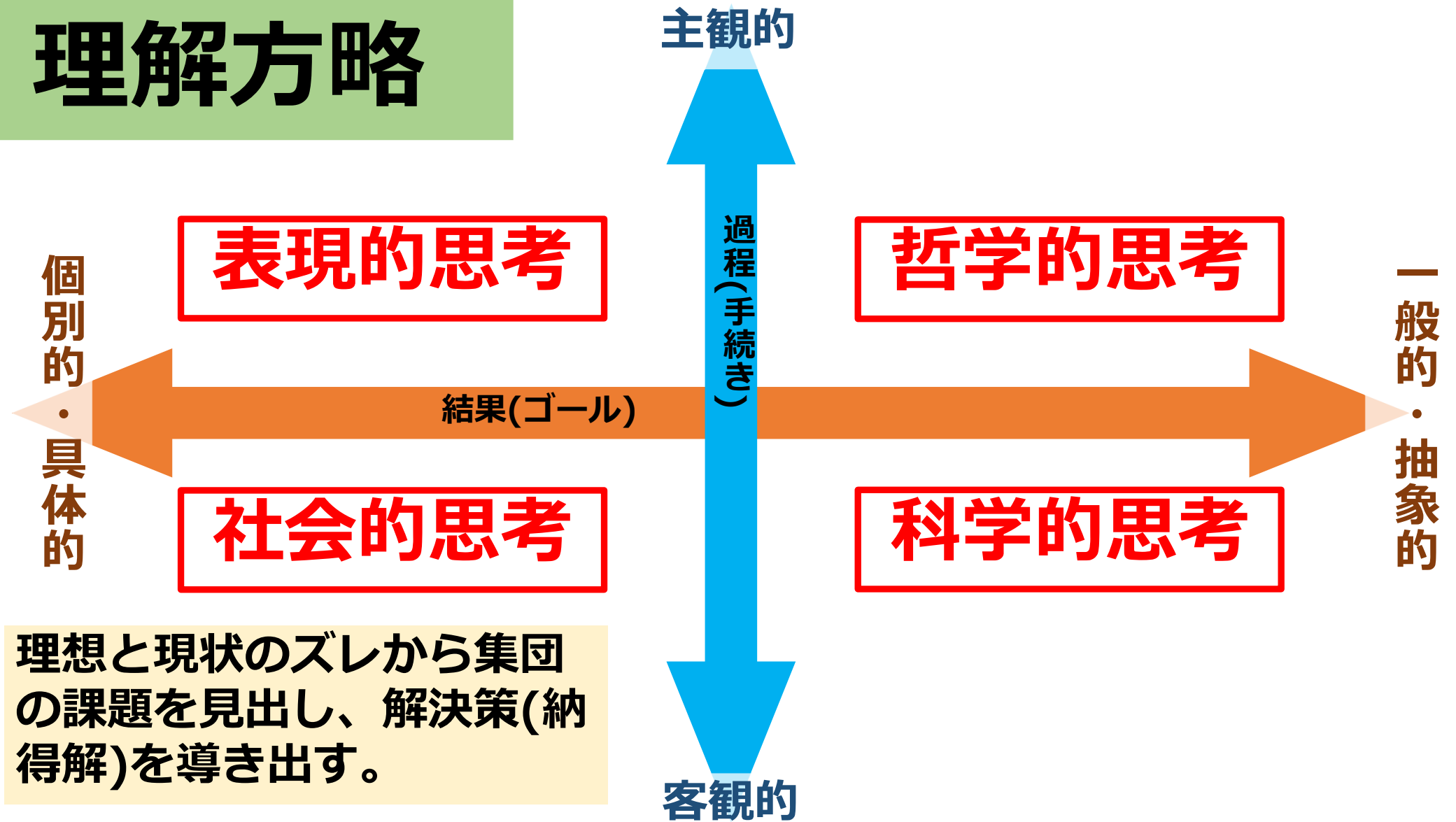
概念的知識

概念

概念図



理解方略



方略

社会的思考

理想と現状のズレから集団の課題を見出し、解決策(納得解)を導き出す。

言語		情報		統計	
A	自分の意見を順序立てたり、比較したりしながら伝えることができる。	A	必要な情報や関係する情報を書き留めて、目的に合わせて活用することができる。	A	自分なりにデータを集めて考えたり、表やグラフに表して伝えたりする。

「領域スキル」として設定

社会や集団の形成者としての自覚と責任をもち
他者と協働しながら よりよい未来を創造する子ども

各教科の資質・能力

各教科を統合・横断

幸福

文化

自然

地域

実用的で学問的な学び

自らが意味や
価値を見出す

探究に
向かう力

価値づけ

まとめ
表現

情報
収集

整理
分析

課題

創造する力

新教科「未来探究科」